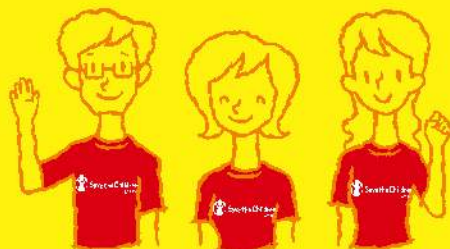


中間ふりかえり って何？

わたしたちがみなさんと一緒に^{いっしょ}行ってきた活動は2011年から2015年までを予定しており、中間地点で一度活動のふりかえりをしました。これから活動をさらに良くするために、自分たちで話し合ったり、子どもたちに関わっているみなさんに話を聞いたりしました。



わたしたちは、これからも

子どもたちの声を大切にし、

^{いっしょ}子どもたちと一緒に活動していきます。

どうして

中間ふりかえりを
したの？

1

人・お金・^{じょうほう}情報などを正しく使って活動し、その結果を関係者のみなさん、特に子どもたちに説明することを大切にしているからです。

2

活動について、関係者のみなさんやわたしたち自身^{じしん}がどう思ったか、様々な^{してん}視点で活動をふりかえることで、正しい内容^{ないよう}を報告^{ほうこく}するためです。

3

子どもたちが自分たちに関わる活動について正確な^{せいさく}情報^{じょうほう}を知ること、子どもの^{けんり}権利のうちの一つだからです。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ^{とうきょうほんぶ}東京本部

^{じゅうしょ}住所：〒101-0047

東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル4F

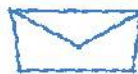
東日本^{だいしんさいふっこうしえん}大震災復興支援事業部

TEL：03-6859-6869

E-mail：kodomonokoe@savechildren.or.jp

HP：http://www.savechildren.or.jp/

レポートを読んでどうでしたか？
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの
活動^{かどう}についてどう思いますか？
みなさんの声を手紙やメールで
聞かせて下さい！



セーブ・ザ・
チルドレン・ジャパン

^{だいしんさいふっこうしえん}東日本大震災復興支援事業

中間ふりかえり レポート

わたしたちはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンです。

^{ふっこうしえん}復興支援の活動を始めてから

2年半がたった2013年6月から11月に、

これまで^{おこな}行った活動の

中間ふりかえりを行いました。

 Save the Children
JAPAN



セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、
生きる・育つ・守られる・参加する
「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、
日本をはじめ世界中の子どもたちのために、
子どもたちとともに活動しています。

子どもの権利条約は1989年に国際連合でき、
現在、日本をはじめ194の国と地域が守ると
約束しています。



たとえば…

- ▶いつでも健康でいるために
医療・保健サービスを受ける
権利を持っています。
- ▶生活が難しい場合には、国から
お金などのサポートを受ける
権利を持っています。

生きる

一人ひとりが持っている

子どもの権利



育つ

たとえば…

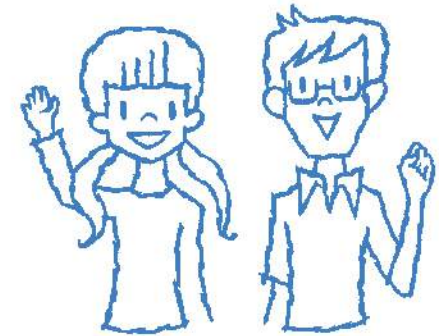
- ▶みんな同じように教育を受ける権利を持っています。
- ▶休んだり遊んだりすることができ、またスポーツ・
文化・芸術活動に参加する権利を持っています。

参加する

※これらは、子どもの権利条約の一部です。
詳しくは…http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/pdf/CRC_color.pdf

たとえば…

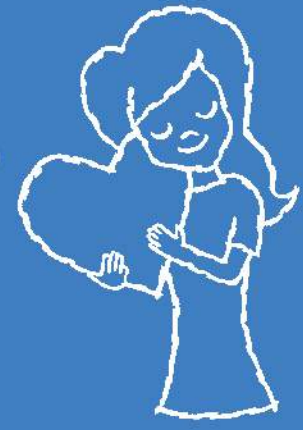
- ▶自分の意見を自由に表す
権利を持っています。
- ▶グループを作り、集まる権利を持っています。



守られる

たとえば…

- ▶誰からも幸せをうばわれない
権利を持っています。
- ▶親などからの暴力やひどい扱いから守られる
権利を持っています。



中間ふりかえりの結果発表!



2011年3月11日に東日本大震災が起きた
あつちから、わたしたちは、岩手県・宮城県・
福島県で、復興支援活動を行ってきました。
これまで日本をはじめ世界中からの協力のもと、東北の47の市町村で10万人以上の子どもたちとその家族のみなさんをサポートしてきました。

活動の目標

- 2011年3月に地震と津波が起きたことを受け、子どもやその家族の生活が元に戻るためのサポートをする。
- 災害などが起こる前の準備や、災害の危険を減らすための計画をより良くするために、子どもたちが主体者となれるようにする。

子どもまちづくりクラブ

復興に向け、地域の一員である子どもたちが声をあげ、参加できるように、岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市の子どもたちと一緒に「子どもまちづくりクラブ」を開始! 子どもたち自身がまちづくりに取り組む活動をサポートしています。

Hear Our Voice ~子どもたちの声~

アンケートなどを通じて、地域の復興計画やまちづくり、防災に対する子どもたちの声を集め、社会に発信しています。また、行政の計画に子どもたちの声が入り入れられるように、子どもたち自身が働きかける活動をサポートしています。



岩手

宮城

福島

課題と目標

今後も「子どもまちづくりクラブ」をはじめ、もっと多くの子どもたちが自分のまちの復興に向け、声をあげ、参加できる機会をつくっていきます。また集まった子どもたちの声を大人や社会に伝えていきます。



「こども☆はぐくみファンド」

赤ちゃんや障がいのある子どもをはじめ、様々な子どもの支援活動を行う地域の団体をサポートしました。活動に必要なお金やトレーニングを提供することで、様々な団体が子どもたちの元気な成長を応援する活動を行うことができました。

震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト

震災直後から避難所生活までの期間に「中高生が誰かのために何かをした」エピソードをつづった記録集を作成しました。中高生が震災後に守られるだけでなく、様々な役割を果たしたことを多くの人に伝えました。



課題と目標

今後、他の地域から団体活動への支援が少なくなっていくことに備えて、子どもたちの活動を行う地域の団体が、自分たちの力で良い活動を長く続けられるように、団体自身の組織の力を強くするためのサポートを行っています。

遊びを通して楽しく学ぶ防災

放課後の子どもたちの居場所の一つである学童保育施設で、防災カードゲームや紙芝居などを使い遊びながら、自然に防災について学んだほか、新聞紙やビニール袋など身近な物を使って震災時に役立つスキルを学ぶ機会を作りました。



課題と目標

子どもたちがいざという時に自分で考えて、行動できる力を身につけていけるよう、学童保育でも防災について取り組んでいくことは大切です。子どもたちが楽しく継続的に防災に取り組めるよう活動していきます。

放射能リテラシープロジェクト

子どもたちが、グループで話し合ったり発表したり、ゲームをしたりして、放射能について学び、いろいろな情報の意味を考え、自分で考えていく力を身につけられるよう、ワークショップをしています。



課題と目標

子どもたちが、放射能について自由に質問したり、学んだりできる場所はまだまだ少ないです。放射能だけでなく、そこから生まれるいろいろな問題についても、子どもたちが考え、意見を言えるよう活動していきます。

専門家による出前授業

専門家や企業で働く人々を招いて、経営、販売、スポーツ、音楽など楽しく参加できる特別授業を行いました。さらに、災害に備えて防災授業・AED研修も実施しました。

学校生活への支援

農業と水産業は地域の経済の柱です。復興に向けて、将来を担う農業高校と水産高校の生徒が学校へ通い続けられるように奨学金を贈りました。また、通学や部活動のためにバスを利用できるようにサポートしました。

地域の遊び場づくり

小学校に入る前の子どもと子育てをしている人が、子どもの発達につながるような遊びを楽しんだり、一緒に仲間と集まって遊んだり、話をしたりする機会を定期的に作りました。



課題と目標

震災によって学校・家庭・地域の環境が大きく変化しましたが、勉強、実習、部活動など充実した学校生活を送り、夢の実現に向かって歩めるように、奨学金や出前授業などを通じてサポートをしていきます。



課題と目標

このような機会が長く続くように、またいろいろな地域で活動が始まるように、東北地方で子育てに関わっている人たちと協力をしていきます。